

タイトル～「 災害に強いまちづくり 」

～概要～

北海道で9月6日発生の胆振東部地震（震度7）で大きいショックを受けました。幸いに私の住む札幌手稲区では停電（ブラックアウト）で1～2日不便さを感じた程度でしたので今は安心して暮らしております。

次に街づくりの観点からのポイントを3点述べます。

- ① まず初めに今、電線網に頼っている北海道電力からの生活を今後見直す考えをされてはどうか。いつ災害が起こるかは分かりませんので自家発電装置の時代を考慮、今回の震災で私の住む北海道全域停電（ブラックアウト）が発生しない為にも、電力供給網の強化は災害に強いまちづくりを考える大きな課題なのです。その他としては、ソーラーパネル、バイオガス、天然ガス、水力、風力、褐炭、石炭火力その他。
- ② 各、自治体で災害に備えたエネルギー設備の備蓄を図る。
一般家庭では、水、食料をはじめ、エネルギーの備蓄が重要になってきます。まずは、家庭用蓄電池の普及に各、自治体は前向きに考えてほしいものです。購入費用は100万円以上しますので、各、自治体で補助金を工夫するなど是非検討してもらいたいものです。その他にも最近では多彩な発電機も売りに出されているようです。また、次世代の防災装備としては、トヨタ自動車が発売の「プリウスPHV」、聞くところによると、大容量充電池を内蔵されていますのでこれからは注目車の一つとなるものと思われれます。その他に日産リーフ、ホンダ、三菱など他。
- ③ 万が一災害に備えてのエネルギー備蓄を第3セクター（民間）で管理。
企業誘致の一貫として第3セクターが管理をします。もちろん自治体の活性化にもつながる事です。また雇用も生み出す契機にもなります。ここでは、水、食料など含めて少なくとも1週間分位の非常食管理をすること。また、防災グッズなども直ぐに取りそろえられるようお願いをしたいですね。できたら各、自治体で毎年非常用食料、飲料水などを有料で配っていただきたい。それから災害による火災時には各家庭に消火器を1個義務付けてはどうか。それに非常用持ち出し袋などコンビニなどで気軽に買えるような配慮がほしいですね。いずれにしましても各自治体では、検討できるものから率先して実行してください。

～以上～